



## 信じて 見守る

副校長 牧尾 俊哉

新年度が始まり1か月が過ぎようとしています。入学・進級したお子様の様子はいかがでしょう。

この時期は、子どもたちが新しい環境に慣れ始める一方で、心が揺れやすい時期でもあります。新しい友達関係ができ始める反面、その中で戸惑いや行き違いが生まれることもあります。ですが、それは子どもたちが自分の世界を広げようとしているときに起こる大切な成長過程なのだと思います。

世間では「五月病」という言葉も耳にします。新年度が始まり、子どもたちが新しい学年や友達関係に一生懸命向き合ってきた中で、少し疲れが出たり、気持ちが不安定になったりする状態を指して使われることが多い言葉です。私たち大人でもそのような思いを感じることはないでしょうか。4月は緊張しながらがんばっていた分、5月頃になって心や体の疲れが表に出てくることは、決して珍しいことではありません。

たとえば、「朝起きづらくなった」「学校に行きたくないと言う」「元気がないように見える」といった様子が見られることもありますが、その多くは成長の過程で壁を乗り越えようとしているときに見られる反応なのだと思います。そんなときに私たち大人が大切にしなければならないのは、すぐに原因を決めつけてアドバイスをしたり、無理に元気づけたりすることよりも、「そういう時期もある」と受け止め、子どもの話に耳を傾けながら見守ることだと思います。

かく言う私も、自分の子育て経験を経て今だから思うことであって、当時はそんな風には思えていませんでした。つい私たち大人は、心配のあまり先回りして手を出したり、子どもが立ち向かうべき課題を解決しようと奔走してしまったりすることがあります。しかし、すべてを整えてしまうと、子ども自身が課題に立ち向かい成長する機会を奪ってしまうこともあります。こんなことを考えるとき、私の頭にはアルフレッド・アドラーが言う「課題の分離」という言葉が浮かんできます。

課題に立ち向かうのは子ども自身です。子ども自身が悩み、考え、自分なりの答えを見つけていく中で、自立というゴールに近付いていきます。寄り添い励まししながら、信じて見守ることができる大人でありたいと思います。

4月27日雨上がりのダブルレインボー →

